

2025年度 探究型カリキュラム各授業学習目標・授業目標 科目名：2年アート思考

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを理解し適切に用いることができる ・ 社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アートを見て感じ取ること（＝感性）、あるいはその手法を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる ・ 物事に一つの解答を求めるのではなく、多様で複雑なまま受け入れて熟考することができる ・ 自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる ・ 他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる ・ 作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として、手法として使い分けることができる。 ②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。 ③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語るすることができる。 <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテキストによる関係性を意識して考察することができる。 ②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。 ③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①より多くのアート作品や文献に触れようとするすることができる。 ②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。 ③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。 	

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
学習目標	本時の具体的な目標 ・ 探究授業とはどのような授業なのかを理解する ・ アート思考の授業とはどのような授業なのかを理解する。また、アートノートの重要性について説明。		
時間	5 限	全体ガイダンス	
授業内容	6 限	授業の狙いや進め方についての説明、発想力ゲーム	
評価方法	学びの記録による評価		
宿題指示			

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
学習目標	本時の具体的な目標 ・ 夏休みフィールドスタディ企画の紹介 ・ ビジネスの世界におけるアート思考の紹介		
時間	5 限	夏休みに、瀬戸内芸術祭に行くフィールドスタディの紹介	
授業内容	6 限	スティーブ・ジョブスの紹介、アートと AI 開発について海外と日本の事例を参照していき、これからの AI と人間の関係について考察する	
評価方法	アートノートによるまとめと調べ学習		
宿題指示			

授業日	4/30(木)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
学習目標	本時の具体的な目標 ・ パブリックアートについて ・ 鑑賞について		
時間	5 限	パブリックアートの歴史についてと、日本におけるパブリックアートを歴史的に見ていきながら、その変容を考える。	
授業内容	6 限	鑑賞するから、深く鑑賞するへの切り替えを考える 1 点作品を鑑賞し、メモをとり、それをグループで発表する。自分と他者の感じ方のズレや違いを経験する。	
評価方法	学びの記録の提出		
宿題指示			

授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 固定観念を打ち破り、自由な発想を行うということへの感度を高める ・		
時間 授業内容	5 限、6 限	ゲスト講師岩淵拓郎氏によるレクチャー「なんだこれ？」 さまざまな「なんだこれ？」を観て、「なんだこれ？」を感じ取る。	
評価方法	学びの記録による		
宿題指示	次回の授業で、自分の考えた「なんだこれ？」を発表する		

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 自分が作成した「なんだこれ？」について、他者の意見を聞く。 自分が気付かなかったことまで他者が感じ取っているものがあったり、様々な発見がある。 ・ 他者の作成した「なんだこれ？」を観て、自分が感じたことを発表する。		
時間 授業内容	5 限 6 限	各自が作成した「なんだこれ？」60 秒動画を観ながら、コメントをしていく。 各々が自分の観点で作品に「なんだこれ度」を評価する。	
評価方法	学びの記録による		
宿題指示	次回 6 / 3 は兵庫県立美術館に現地集合		

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 対話型鑑賞を通して、自分のもののかん感じ方や捉え方と他者の感じ方や捉え方との違いを感じ取ると同時に、自分の解釈を深める。		
時間 授業内容	5 限 6 限	兵庫県立美術館の本物の美術作品で、学芸員の方に対話型鑑賞を行っていただく。その後館内の作品を自由鑑賞する。	
評価方法	学びの記録による		
宿題指示			

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・自由鑑賞した作品に関して自分なりの捉え方を整理し発表につなげる ・		
時間 授業内容	5 限 6 限	3～4人のグループの中で自分の気になった作品について90秒の発表を行う。 その発表に対してグループ内で質問をし、お互いに理解を深めていく。 各自が、他者からの質問も取り入れながら、次週の全体発表に向けて準備をしていく。	
評価方法	グループ内での活動内容に関してその取り組み姿勢		
宿題指示	次週の発表に向けてのパワーポイントの準備、事前提出		

授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・兵庫県立美術館で気になった作品をプレゼンテーションする ・		
時間 授業内容	5 限 6 限	一人3分から5分の時間でプレゼンテーションを順番に行っていく	
評価方法	学びの記録による評価 プレゼンテーションはお互いに評価しあう		
宿題指示	アートノートを次回提出		

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・プレゼンテーションの見やすい資料について ・夏休みの課題1「アートエッセイ」について ・夏休みの課題2「課題図書」について		
時間 授業内容	5 限 6 限	わかりやすいプレゼンテーション資料の見せ方について説明する。 「アートエッセイ」作成にあたり、どのようなことを意識していくかを一昨年度のエッセイを提示して解説する。 夏休み課題図書の提示とその発表についての説明を行う。	
評価方法	アートノートを回収し、チェックする		
宿題指示			